

# OB会報

## 湘南サッカー一部OB会

## 第14号

### 迷悟本来空

湘南サッカー一部OB会長

1回 天野武一

開口一番、こんなことを申し上げるのは、いかがかと存じますが、いま、私は、わが生涯を顧みて、公私それぞれの親交を煩してきた仲の友人知己のうちの誰れ

彼が、申し合わせた如くに昨年暮れから本年の初めにかけて、相次いでこの世を去ってしまった、まったく参ったことを告白せざるを得ませぬ。予ねて、東京で闘病中の鎌倉育ちのわが母校異色の湘南OB、都築忠春君が亡くなられ、気の毒に堪えずにいるとき、今度はあの熱烈なサッカーの指南役を果たしていた安保隆文医師の訃報を知ったのですから、余りのことにおどろきました。当時、そのことを迂闊にも気付かずにいた私は、のちに経緯を教えられるに及んで、もっぱら老生自身を責めるにほかないことを自覚し、故人ご生前のご懇情や御思召しに酬ゆる機会を逸したまま、この日に及んでいることの無礼を恥じ、ついつい老残の身を悔い且つ嘆じてやまないしだいであります。

故人の都築、安保ご両人ともに旧制高

校（静岡）が私と同門の間柄なので格別共通の想い出があります。

さて、私は、本年秋の誕生日（九月二十一日）をもって米寿の老齢に達します。もはや何のお役にも立ちませぬ。各位にはお世話をおかけするばかりで申し訳ありません。

未ながら、各位より賜ったご芳情を深謝するとともに、皆様のご自愛と御健康を祈り上げるものであります。御寛厚をお願いいたします。

### 安保君の死を悼む

15回 内田 康侍

安保君の訃報に接したのは11月22日であった。23日恒例の旧制中学名門大会は彼の甲合戦となった。湘南（55才以上のOB）が見事優勝、サッカーと湘南を愛

した彼への立派なはなむけとなった。

15回生は、3年生のとき湘南として初めて甲神静代表として甲子園の全国大会に出場し、彼や大埜（敬称略、以下同じ）はレギュラーとして出場した。4年生のときは惜しくも予選で敗退したが、5年生の時は夏の甲子園で準決勝まで進み、秋の全国大会では夏に惜敗した聖峰中学を破り、再び準決勝に進出したが、明星中学に破れた。しかし、夏、秋2度の文句なしのベスト4を確保したのである。その時活躍した同期生は田村を始め多くの人を亡くし、今回安保を失い、今や大埜と二人だけになってしまった。田村、安保、大埜は全日本級のプレイヤーであったが、時代が悪く全日本チーム自体が編成されなかったが、現在旧制高校出身者で結成されているSOIでも有名で、いまだに話題になっている。

さて、安保のサッカーに対する情熱は相当なものがあつた。大野の甲合戦では詳しい業績は語られたが、湘南OBとしての安保は、天野、岩淵両先輩について長い期間物心両面の配慮をしてきたと思う。大埜が遠隔地勤務が多かったのに引き替え、彼は小児科医院開業後は、地の利を自覚した点もあつたろうが、湘南サッカー部への情熱は相当なものがあつた。シート板を企画したのも彼が主役であつたと思う。校舎の立て替えて一時撤去されたシート板の復元を心配していたが、その実現を確認できなかったのは心残りであつたろう。



彼は先輩岩淵氏を尊敬していた。彼が現役時代、岩淵先輩は森永に勤めておられ、遠隔地勤務のため、後の母校勤務中のように直接指導を我々は受けられなかったが、藤田、島田先輩をコーチに迎えるなど随分お世話になったためもあるが、岩淵先輩が現役引退後も、先輩をたてOB活動をしていた安保の熱意には近くにいた同僚でありながら真似できなかった。安保が亡くなったショックで彼のことをかき綴ったが、大埜と小生は共に小学校も一緒であり、中学卒業後もサッカーだけでない家族ぐるみの付き合いなので、まだまだ書き足りないことは山ほどあるが、……。

さて、冒頭にも述べたように、同期は大埜と二人だけになってしまった。長寿の時代といっても73才という年を考えると、多分の湘南OBと共に、SOIという旧制高校卒業生の集まりに参加し、いまだに老人サッカーを楽しんでいます。ほとんど休日ごとにグラウンドを確保してくれる篤志家が出て、毎回40人前後が集まり、紅白のユニホームを用意して、15分づつのサッカーゲームをやり、年2回の東京と京都の大会ではチームは別でも仲良く楽しんでいきます。小生のような下手くそでも昔の全日本代表の選手とも互角にわっています。たまにはペガサスからのお誘いもあったり、神奈川四十雀の老人チームにも属したり、愉快な人生を送ら

せてもらっています。私が湘南のサッカー部に入ったとき、父にはどうせやるなら年寄りになって出来るテニスなどをやれといわれ、そのころこんな年までサッカーをやることは夢にも考えられなかったが、父の意見を聞かなかった幸せをいま味わっています。(最後に、女子供に負けるサッカーなどサッカーとはいえないなどといわないで下さい。ビデオを早速りにして見れば全日本級ですぞ。)

特別寄稿

安保先生の思い出

栄光学園サッカー部OB会  
会長 頼原 正美

栄光学園の蹴球部が誕生したのは、昭和二十年代。我々の実情をみた湘南高校の岩淵先生がちょうどその頃、田浦の病院に勤務されていた安保先生をコーチにご紹介して下さったのです。これが安保先生との出会いの始めでした。先生はお忙しい中、月に2・3回我々のグラウンドにお出かけ下さり、サッカーの基本を指導して頂く事になりました。

安保先生は使いこなし革のスパイクとユニフォームを持参され、手早く着替えて練習を始められ、布のスパイクしか知らない我々は新鮮な印象を受けたことを思い出します。それよりも何よりも印象に残っているのは、あの軽快なフット

ワークと玉さばりとダッシュのすばやさ、蹴った球のスピードでした。  
「私は先輩から可愛がられたので、あまり練習をしなかった。」と自慢されるだけあって、その動きは往年の活躍ぶりを示すのに充分でした。「常に踵を浮かせておけ!」と自ら実践して見せて下さるコーチに、我々はただ見とれるばかりでした。

栄光学園の蹴球部が県公式戦に初出場したのは昭和二十七年八月国体予選、湘南高校のグラウンドでした。  
誕生早々のチームは監督もコーチもなく連戦連敗のうえ「満足にボールも蹴れない、ルールを理解するのがやっと」と評価され、この試合もそのとおりでした。

先生の熱心な指導により、栄光学園も次第に実力がつき、リーグ三部から二部に昇格、その後は東関東大会・全国大会・国体等でも優秀な成績を挙げ、神奈川県でもサッカーの名門校と言われるようになりました。  
現在の栄光学園のサッカー部の成績はあまりパツとしないようですが、その創立の基礎を築いて下さった先生に感謝いたしております。

心からご冥福をお祈りいたします。

合掌



「FIFAワールドカップ」を日本に!!

(財)日本サッカー協会監事

22回 桑田 孝

本年九月十日に日本サッカー協会は創立七十五周年を迎える。その記念事業として、①(財)日本サッカー協会七十五周年史の発行 ②記念式典、記念レセプション ③記念国際試合 ④シンポジウム ⑤各都道府県協会におけるサッカーフェスティバル等が行われることになっており、その他九月十日を「サッカーの日」にしようとか、天皇杯を改革しようとか色々考えられている。

しかしそれらの行事も二〇〇二年のワールドカップが日本開催に決まってこそ盛り上がることであり、目下協会のトップは世界中を駆け回って懸命の招致活動を行っているが、相手国の韓国も激しい動きをしているので可能性は五分と五分、最後の最後まで分からない状況である。決定日の六月一日までますます両国間の競いは水面下での動きを含め激しくなるものと思われる。

ところでこの二月始め、FIFA(フイファ/国際サッカー連盟)から今後サッカーの「ワールドカップ」の呼称につ



いては英文表示の場合「FIFA WORLD CUP™」と頭にFIFAを大文字で入れて表示、目立たせること、Trade Markを示すTMの記号を右上に表示すること。

片仮名表示の場合は、「ワールドカップ」でなく「FIFAワールドカップ」とFIFAを大文字で表示目立たせること、TMの表示は必要ないとの通達があった。

その狙いは色々な種目で行われているワールドカップ戦とサッカーのワールドカップ戦を区別すること、「FIFAがワールドカップの催しの最終的な権利所有者であり、主催者である」ことを周知徹底させることにあると思われる。

日本サッカー協会としては二〇〇二年日本ワールドカップ実現の観点からこれの周知徹底を計るつもりであり、マスコミにも協力依頼をしているので、これから出される広告、出版物等では「FIFAワールドカップ」という文字が目につくものと思われる。

しかし何と言ってもワールドカップを日本に招くためには、日本が国を上げてワールドカップ招致に熱心であり、サッカーが盛んであることを示すことが一番である。

女子は既にアトランタオリンピックの出場権を取っている。男子もこの三月に行われる第二次予選を勝ち抜いて出場権を取ってほしいものである。

又、Jリーグも引き続き盛り上がりつつ欲しいし、これから六月まで行われる日

本での国際試合も全部満員になり、よい試合をして相手国に好感を持たれることを切に祈っている。何故ならそれらの試合の相手国は、開催国の決定投票権を持っているFIFA理事二十一人の国であり、日本に投票してもらうため呼んでい

るからである。二〇〇二年のワールドカップが日本に来ないと、次の機会は五十年後とも百年後とも言われている。それではとても我がの生きていくうちに間に合わない。又、グラウンドの整備もそれだけ遅れることだろう。

皆様方の絶大なご支援、ご声援をお願いする次第である。

### 還暦を迎え

海老名高校校長

鈴木 中

湘南高校を去ったのが平成元年だった。早いものでもう7年になる。そして還暦を迎え、いよいよ学校を卒業することになった。「定年」と言うとは何となく「リタイヤ」という感じであまり感心しない。人生80年縦割りの考えでいくと、別の一つの区切りで自分では変な悲壮感はない。むしろ、2足、3足の「草蛙(わらじ)」

から解放され、サッカーオンリーの生活のなるので楽しみにしている。教師とサッカー、高体連とサッカー協会、学校とサッカー協会、技術と審判、校長と理事長、〇と〇というように常に公務員としての本務とボランティアの部分の重なり、それらの全てに対応できたのも、よき先輩、後輩、同僚、教え子、そして家族の協力があつたからだ、今頃になって感謝している。考えて見ると自分の人生「サッカーのみ」と言うことになる。高校で昭和26年に始めたサッカーが大学、教員、湘南(昭和36、63年)現在まで「主将」委員長「部長」「理事長」「校長」と常にその中でリーダーシップを取ってきたようだった。別に積極的に自分からやりたくて立候補したわけでなく、自然にそうなったように思われる。親爺が付けた「中」と言う名前がそうさせたのか「中庸をいく」「中和する」「中心を貫く」

・ ・ ・ いろいろの意味はあるが最近「中」。「ええかげん」と考えている。還暦を迎えてやつとここに落ち着いたのはいささか遅すぎたようだ。「縦割りの人生」を、少し注釈すると、「学」23才、「働」60才、「遊ぶ」80才、といういままでの考えと違い、「学、働、遊」は80才までであるという考え方で、これからはサッカーが「学、働、遊」になると思うとわくわくして来る。

孟母五選「終の住処」も湘南の地に出たので、一九九八年(神奈川県国体)二〇〇二年ワールドカップ、仕事はまだ

まだ続きそう。湘南高校のサッカーもせひせひ面倒を見たいと思っている。神奈川のサッカー、日本のサッカー、湘南のサッカー、サッカー界のいじわる爺となつてまだまだ頑張るつもりだ。せひ我が家におでかけ下さい。「マージャン、ゴルフ、スキー、サイクリング、」遊ぶことは何でも付きあいます、そしてまだまだ負けません。皆さんのパロメーターとして何時でも、何処でも、私は関係なく飛んでいきます。仲良く遊んでください。

### 95 ペガサスシニアの活動

26回 酒井 佐弘

結成以来、4年を経過、5年目に当たるペガサスシニアの昨年度を振り返って見ると、まず戦績としては所属する県四十雀リーグ二部では九試合を戦い、七敗二分の残念な結果に終わってしまいました。今期より新設された三部入となりました。

リーグ戦以外で古河のマスタース大会での4試合を含め市親善試合11試合を行



る事もありほぼ5分の星を残せました。

その他には恒例の旧制中学選抜大会(55才以上)と同じく11月に刈谷市で全国23チーム参加のスーパーエイジ大会(60才以上)が行われ、これに一昨年に引き続き、湘南OBサッカークラブとして参加。山梨四十雀、東大LB、名古屋500の各チームと対戦し、一勝一敗一分となりました。これにもペガサスシニアのメンバーが半数以上参加しています。

平均年齢55才以上のチームにとってサッカーは楽しめれば充分であると割り切ってしまうれば勝敗は二の次となりますが勝ち負けのこだわりがきわめて強いと感じられる四十雀リーグのなかで争っているからにはせめて2、3勝ほどの思いがあります。とはいっても次第に高齢化の進むチームにとって40才台の相手方に勝利することは所詮望むべくもないのかも知れません。

50才以上のリーグの具体化が遅々として進まない現状で四十雀リーグで相應の成果を得るにはペガサスジュニアより有力選手の参加を得て、新しく戦闘集団的な性格を持つチームに変わっていくことが条件と思われず。

試合参加人員は述べ315人、試合平均15人、少ないときでも13人とこの年代としては良好な参加率で余裕をもって試合に臨めました。又遠隔地勤務、居住のメンバーが機会ある毎に参加され嬉しいことでした。

主要参加者は以下の諸兄です。  
山本(27回) 田川(27回) 栗原(27回)

- 戦績
- 柳川(27回) 近藤(28回) 塩川(29回)
- 中原(30回) 大内(31回) 山本(32回)
- 亀田(32回) 関根(32回) 篠田(33回)
- 福井(33回) 井上(36回) 田中(36回)
- 植田(36回) 関(36回) 牧村(37回)
- 長谷川(38回) 酒井(26回)

(四十雀リーグ)

- 4/9 0:6座間四十雀、5/21 0:0小田原四十雀、
- 5/28 1:3県庁四十雀、6/11 0:1大和四十雀、
- 6/25 0:5鎌倉四十雀、7/23 0:4多摩クラブ、
- 10/22 1:2早園FC、11/26 0:2川崎四十雀A、
- 12/3 1:1神奈川四十雀A

(古河マスターズ) エンジョイ部門

- 6/3 0:0本荘アイバックス、6/3 3:1川越四十雀、
- 6/4 1:3パルスFC、6/4 0:0古河壮年

(その他)

- 1/29 1:1武蔵OB、4/2 1:3(総得点) 付属OB
- 5/7 1:0付属OB、9/2 2:1付属OB、
- 10/28 0:1横藤連合、11/9 0:1川越四十雀、
- 12/9 0:0小田高OB

ペガサス近況報告

42回 田部井 徹

湘南ペガサス若手チームの近況報告をします。平成7年度を振り返って見ると、全体としてはかなり良い成績を残せ

たのではないかと思っています。2月から始まった四十雀トーナメント大会でいきなり準優勝。決勝戦の終了5分前にPKを取られ、惜しくも0対1で負けましたがこの大会5試合戦って失点1(PK)はその後の試合に対して大きな弾みとなりました。6月の古河市マスターズサッカー大会ではエンジョイ部門に出場し、5チームのリーグ戦で3勝1分と他県のチームを破り見事優勝しました。この大会でも4試合で得点10、失点1の大健闘でした。

そして、一番長丁場の県リーグですが、我がチームは現在1部リーグで試合をしています。結果からいうと4勝3敗5分で13チーム6位の成績でした。前半は昨年負けた相手を中心に3勝2分と順調な滑り出しでしたが、夏過ぎた当たりから歯車が狂いだし急に得点ができなくなり、おまけに守備のほうも乱れて失点も増える有様で、終わって見ると昨年と同様の6位でした。

一年間を振り返って思うことは、「こちらのリズムで試合をしている時に、如何に確実に点を取るか」ということです。ドンマイ、ドンマイ、の連続が結局は自らのペースを乱し、攻めのリズムだけでなく、守りのリズムまでもおかしくしています。今年はドンマイは一人一回で済むようにしたいものです。そのためには試合に対し『頑張ろう』だけではだめで、試合に備えて『自分としてはどのような努力をしたか』が問われることになります。毎年確実に1歳づつ年を取るこ

とを考えると、体力を維持することは年と共に難しくなりますが、これをうまく調整できるかどうか、好きなサッカーとどこまで付き合えるかを決定付ける重要な因子となっていることも確かです。そのような観点から、今年は『体調の整備と気力の充実』を忘れずに、リーグ優勝を目指し頑張りたいと思います。

湘南ペガサスも早いものでチーム結成以来18年が経ち、多くの仲間が集う楽しいクラブとなりました。ただ一つ残念なことは、毎年継続的に卒業生が入ってこないことです。高校時代の部活と違い、多くの大先輩たちと一緒にボールを蹴るのも楽しいものです。湘南高校サッカー部OBの諸君！もう一度ボール蹴りを楽しみませんか。ただし四十雀ですから、40才以上という年齢制限があります。

若手OBの近況

64回 田村 直也

先日(1月28日)、藤沢招待カップ決勝戦で藤沢市役所と対戦し、延長の末1-3で惜敗し、今年度の活動を終えたトトカルチョ湘南。私たち64回生は、現在のこのチームで湘南高校OBチームとして



活動しています。

トトカルチョ湘南をご存知の方は少ないと思いますが、湘南クラブの人数の増加に伴い、3年前に発足した新しいチームで、主に63回生、64回生、65回生が中心のチームです。

活動内容は、年間を通じての藤沢市のリーグ戦、年間4〜5回のトーナメント戦と一見地味ではありますが、成績の方は、市民大会優勝、社会人選手権優勝、藤沢招待カップ準優勝と、トトカルチョ旋風を巻き起こすほど、輝かしい結果を残すことが出来ました。

ただこのチームの最大の目的は、今年度獲得できたような結果を残すことではなく、私は、「高校時代に戻ること」あるいは「高校時代の続きを楽しむこと」だと思っています。それは、どんな相手にも真剣な姿勢で戦っている瞬間(とき)、接戦の末、逆転勝ちした瞬間または耐えきれず追加点を許してしまった瞬間でさえ・・・勝敗に関わらず、当時のAチーム、Bチームといった隔たりもなく、世代を超えた新たな一体感がそこにはあり、何よりも大切なものだと思感しているからです。

今後は、来年度諸事情により、1年間を停止する湘南クラブをはじめその他のOBチームとも交流を深め、さらに幅広い活動をしていきたいと思います。また、今年湘南高校のグラウンドがつかない復活します。久々にあのグラウンドのもとで、現役との交流試合をしてみたいも

のです。

最後に現役の高校生たちへ・・・いいサッカー、いいゲームでおわるのではない心身共に強いチームを目指せ!

### 活躍するOB

#### 新刊三点を紹介

48回 関 佳史

『春陽のベリーロール』(関西書院)

植松二郎(41回)著

植松さんは、早大政経卒。コピーライターで、小説、エッセイ、旅行記の執筆も行う。ニコンの新聞広告コピーで東京コピーライターズクラブ新人賞(72年)、少年小説『ペンフレンド』で第40回毎日児童小説最優秀賞(91年)を受賞。著書は、『ペンフレンド』『かえだま日曜日』(童話屋)『推理短編六佳選』(共著・創元推理文庫)。

本作品は、大阪文学の発展の発展を目指して設けられた第12回「織田作之助賞」(大阪文学振興会主催)の受賞作に輝いた小説。「都会のマンションで何となく暮らす30代の男女の出会いをほのぼのとした文体で描いたもので、親しみやすい文章で巧みに時間を交差させ、読ませる力量は相当(読売新聞)と評価された。単行本として、4月に刊行される予定。

『戦うサッカー理論』(三交社)著 湯浅健二(46回)著

湯浅さんは、武蔵工大卒業後、5年間ドイツに留学、国家試験に合格しプロコーチ・ライセンスを取得。82年からは、読売クラブにコーチとして所属し、グーテンドルフ監督のもと、日本リーグ優勝他数々のタイトル獲得に貢献した。

現在は、マーケティング・コンサルティングに従事。神奈川県サッカー協会技術指導委員会委員、文化放送のサッカー解説、雑誌の執筆などで活躍中。

本作品は、グラウンドの上で展開される戦術とグラウンドの外で行われる監督の役割という2つのポイントでサッカーをわかりやすく分析した著作。日本代表の加茂周監督は「まさにモダンサッカーの理論を体系化したものだ。Jリーガーはもちろん、広くサッカーファンの方に読んでもらいたい」と絶賛している。既刊。

『サンバの国に演歌は流れる』(中公新書) 細川周平(48回)著

著者は、東大理学部卒後、東京芸大に転じ音楽学を専攻、博士号取得。著作は、『ウオークマンの修辞学』『音楽の記号論』(朝日出版)、『レコードの美学』(勁草書房)ほか、訳書も多数。朝日新聞書評委員を務めた。現在、マドリッド在住。サンパウロに長期滞在し、調査を重ねた本書は、歌を通じて描いた日系ブラジル移民の文化史である。日系人は文化的

には異国に同化せず民族的環境を維持しつつ今日に至っている。戦前の演芸会、戦後のど自慢、近年のカラオケと変遷してきた歌の場を軸にブラジル日系社会を分析している。95年9月刊。

### 現役部員の監督として

54回 藤塚 久雄

OB・OGの皆様の暖かいご支援とご協力をいただき、本年度も現役の活動が滞りなく実施できました。ありがとうございました。

今年度の現役部員は83名。校舎改築の為にグラウンドを校外に求めての活動は、部員たちに相当な苦勞をかけているとは思いますが、それを感じさせないパワーで、日々の練習に励んでいます。本年度も、グラウンドのないハンデを感じさせない、むしろ、そのことをバネにして良いチームに仕上がったと思っています。全体として、さすが湘南生といわれる集中力が発揮されていたことと、何と表現してよいのかわかりませんが、良きサッカー部の伝統によって、自然と形成されてゆく何か、作用したことによるのではないのでしょうか。さて、今年の干支は「子」ねずみ。私の干支も「子」。今年で、36才になります。



普段は、西暦を使うことが多いのですが、やはり日本人なのでしょう。年をとったからなのでしょう。自分の干支がまわって来たことに、何となく節目を感じています。

前回の「子」年は、1984年、昭和59年。この年に、私は大学を卒業し、湘南高校に着任し、学生から社会人へと、人生の節目を迎えました。母校に戻れた幸運、母校に対する責任感、そして、いつかは、ここを去る時が来るであろう寂しさなどが、ゴチャゴチャと湧き出るなか、兎に角、一所懸命やろうと決めたことを昨日のように思い出します。それから12年、何が出来て、何が出来なかったか振り返ると、本当にいろいろなことがありました。とても書き尽くせない程多くのことが頭に浮かんで来ますが、ここでは、ふたつの事柄について述べてみたいと思います。

最初に思い起こされるのは、正月の選手権大会出場を果たしたことです。インターハイなどの他大会とは、桁外れの魅力を持つこの大会に出場できたことは、選手・マネージャーにとっても、応援に声を漕らした彼らの旧友、我々OB・OGにとっても、一生の宝物を得た体験であったと思います。当時の現役部員全員が、勝ち取ったこの大きな結果は、湘南の歴史に大きなプライドを与えたと思います。昭和という時代の最後を飾るにふさわしい活躍ではなかったでしょうか。

論、沢山ありますが、それは、別の機会があればということにして、ひとつだけ紹介したいと思います。

それは、選手権大会出場時には、引退していた3年生マネージャーたちの果たしたことについてです。彼女達が1年生であった頃からコンピュータを使ってのOB会住所録管理の仕事が始まりました。慣れないキーボード操作も精力的に行い、データを入力し整理してくれました。これによって、現在のように宛名もタックシールが用いられるようになり皆様の通知事務が、楽に出来るようになったのです。そして、皆様へのご案内が、春、夏、冬と年3回行えるようになったことで、OBの皆様に現役の様子などを良く知ってもらうことができ、さらには、現役に対するご寄付も増えていったのです。現役のサッカー環境は、次第に良くなって行きました。選手諸君のグラウンド上での努力と、マネージャーのデスクワークによるバックアップ。組織として各々が、ベストを尽くした結果が、夢を叶えさせたのではないのでしょうか。

昨今、同期会が、開かれるニュースをよく聞きますが、部員は部員だけでなく、反対にマネージャーもマネージャーのみでなく、集ってみてはどうでしょうか。また、選手権出場以降、OB会費の納入が、低下しているとのことですので、会を持たれる時は、住所の変更も含め、よろしく、事務局へご配慮下さい。

次に、湘南サッカーの大恩人、故岩淵二郎先生のことを、私以上の年齢の方は、覚えていらつしやると思います。現役時代、鈴木中先生とともに、岩淵先生からサッカーを教えていただきました。今でも、インサイドキックについての話や、百万遍理論が思い浮かびます。

ある時、湘南で試合をしていました。スタンドから「オイッ！ニカイドー！」スタนด์から「オイッ！ニカイドー！」「コラッ！ニカイドー！」とか、岩淵先生が、グラウンド上の我々に向けて、大声をかけていました。湘南チームには、ベンチも含め、当時「ニカイドー」なる選手はいなかった。誰をさして言っているのだろうか、あんなに指摘される、へボな奴は誰なんだろうか。ハーフタイムのミーティングで、「オイッ！ニカイドー」と呼びかけられたのが、私でした。この一件で、妙に先生に親しみを覚えてしまったもので、図々しくも、弟の英語をみてくださるよう、後になって自宅へ伺ったこともあり。そんな先生が亡くなって、15年が過ぎています。お墓は、大庭霊園にあります。

校招請し、湘南地区のベスト8と対戦させる形式です。今年度の全国大会にも、松商学園(長野)、帝京第三(山梨)、上野工業(三重)の3校が、本大会参加校から出場しています。

この大会が、回をかさねることができたのは、寒川町、茅ヶ崎市、藤沢市、鎌倉市の各自自治体、また、県レベルの主要なポストに、サッカー部出身者のみならず、湘南の先輩方がおられたからです。なかでも、中心となっている藤沢市では、サッカー協会の会長として、番場定孝先輩に大変面倒をみていただきました。毎回監督会議においては、岩淵杯の由来や、全県的なサッカー界の講話をしていただいています。

OB会より寄贈していただいた岩淵杯は、現在、大阪府立高槻南高校が保持しています。今夏の第5回大会では、ぜひ湘南が勝ち取りたいものです。応援してください。

「子」年は、十二支の始まり。今春グラウンドも完成し、湘南サッカーも、新たな歴史の始まりを迎えます。まずは、現役の為に、OB・OGの皆様の新しい結末の機会としていただければと願っています。

※先日、桑田先輩よりご連絡があり、超OB有志の方々から現役にユニフォームを寄付(2着、蹴球祭にて)して下さること。また、故安保副会長のご遺族からもご寄付を戴きました。末筆ながらご報告と心より御礼を申し上げます。



現役より

キャプテン 金井 涼

皆様、ますます御健勝の事と存じます。
昨年は、物心ともども、多大な御援助、御協力を戴きまして、本当に有難うございました。

おかげさまで、昨年は新校舎が完成致しましたが、グラウンドの使用ができません。
為、他会場での練習・試合が続きました。
しかし、本年三月には、晴れてグラウンドが完成することになり、部員一同、その日を心待ちしております。

昨年は、関東大会予選ベスト4と、あと一步のところ涙をのみましたが、今年には去年の悔しさを果たす為にも「この三ヶ月間が勝負」との思いから、週二、三回の早朝駅伝を行ない、また、先の新入選での敗戦で課題となった、選手同士のコーチング、味方とのコミュニケーション、ダイレクトパスをテーマに練習に励んでいます。
グラウンド完成の際には、御多忙の事は存じますが、是非、お立ち寄り戴き、ご指導・ご鞭撻下さるよう心よりお待ちしております。

《試合結果》

Table of match results including categories like 練習試合, 新人戦大会, 地区大会, 静岡フレンドリーマッチ, 筑波大付属定期戦, 関東大会予選, 関東大会準々決勝, 関東大会準決勝, 練習試合, 浦和高校定期戦, インターハイ予選, 練習試合, 湘南サッカーコースト, 選手権予選, 練習試合, 藤沢市民大会, 練習試合, 新人戦一次予選, 新人戦二次予選, 練習試合, 北相大会, 練習試合, 新人戦大会.



## 蹴球祭・総会のお知らせ

～グラウンド開き&筑波大付属定期戦～

3/24 (日) 於 湘南高校

9:00 OB会総会 (多目的ホール)  
 10:00 グラウンド開き式典  
 10:30 対付属 OB戦  
 13:00 対付属 現役戦  
 14:30 OB紅白戦  
 (16:00 終了)

- \*グラウンド開きです。多数のご参加を!
- \*付属戦とOB会総会を合同で行いますので例年とスケジュールが異なります。
- \*体育館で、フットサルができますので、室内用シューズを準備してください。
- \*多目的ホールの利用には室内用シューズまたはスリッパをお持ち下さい。

(ホールにて筑波との懇親会 (現役) が行われます。  
 (その後OB=現役の懇親会を予定しております。(15:30~16:30))



### 平成7年度会計報告

〈収入〉		〈支出〉	
会費・寄付	923,000	現役寄付	350,000
繰り越し	1,078	現役遠征補助	80,000
利子	897	OB遠征補助	80,000
合計	924,975	蹴球祭	85,740
		通信・事務	214,000
		その他	25,000
		通帳残高	90,235
		合計	924,975

### 住所変更等の連絡先

住所変更等がございましたら下記のOB会仮事務局までご連絡ください。

〒251 藤沢市大庭5090-5  
 山口晴夫  
 TEL. 0466-87-7565

### 会費納入のお願い

7年度はご協力ありがとうございました。  
 本年も宜しくお願ひ致します。

- ◎社会人 5,000円
- ◎学生 3,000円

蹴球祭当日、受付致します。  
 ご欠席の方はお手数ですが、同封振込用紙にてお振り込みくださるようお願い致します。  
 なお、下記銀行口座もご利用頂けます。

横浜銀行本店 普通  
 口座番号 019166  
 湘南高校サッカー部OB会  
 武藤俊一 TEL.0466-34-9329

### 編集後記

安保さんの突然のご逝去にあたりご冥福をお祈り致します。これに伴い事務局内部での役割分担を変更、仮事務所を山口家におくこととなりました。また、グラウンド完成までの丸3年の間、藤塚先生本当にご苦勞様でした。今回の会報は、先生と同期の森、教え子の田村両氏が編集担当として新たに参加してくれました。今後も若手の方の参加を望みます。(相羽)  
 中さんはこの4月で定年、昨年11月に還暦を迎えられました。国体やワールドカップ招致をひかえて、神奈川県サッカー協会理事長などの公的なお立場ではまだまだご活躍していられるはずですが。教え子を中心とした有志で何か感謝の気持ちを表わそうという企画を検討中です。(関)